

JSCPR 公開講座

日時:2018年8月25日(土)

12:15 開場(12:35 から青沼さんの新アニメ上映)

12:45 開始~17:30 終了

場所:立正大学品川キャンパス 9号館 9B21

予約不要 資料代 1000 円 (学生無料)

◆ 西田公昭 : 拘置所での面談をふりかえって

1960年生、立正大学教授。オウム事件や統一協会などの多数の裁判で、鑑定人など。当代表理事、日本グループ・ダイナミクス学会々長、「マインド・コントロールとは何か」「信じるこころの科学」等。



◆ 青沼陽一郎 : 麻原法廷とは



1968年生、ジャーナリスト。様々な分野で精力的な活動。著書に「オウム裁判傍笑記」「池袋通り魔との往復書簡」「帰還せず残留日本兵60年目の証言」等、ブログは「是々非々にて候。」

◆ 降幡賢一 : 法廷で何がわかったのか

1945年生、元朝日新聞記者。日本エッセイスト・クラブ理事。オウム裁判を傍聴し続け、「オウム法廷」13冊として結実。その他に「オウム裁判と日本人」



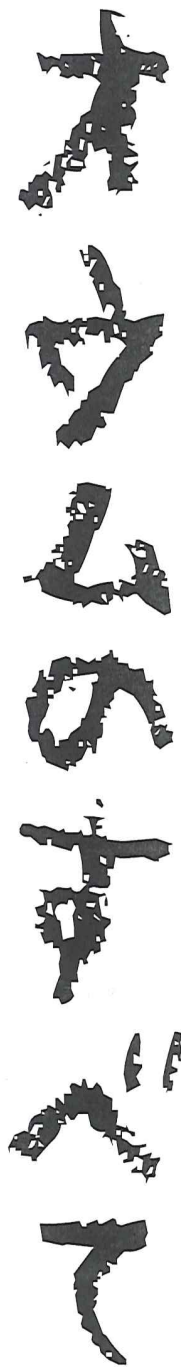
◆ 脱会者証言 : カナリヤの会々員が初めて公に話します。

- 沢木晃:1991年入信、準出家者、97年脱会、手記「君が消えた夏」
- 渡辺恵美子:1992年入信、94年5月出家、10月脱走・脱会、故新実逮捕の監禁被害者、諸情報を事前提供しこれが強制捜査につながる。手記「暑い日」
- 山中次郎:1988年入信、89年出家、95年逮捕、99年脱会、サリンプラント製造、松本サリン噴霧車改造作業にて受刑、手記「東京拘置所の寒い日」

◆ 上記6人でのパネルディスカッションとその他にも

- 高橋シズエ(地下鉄サリン事件被害者の会 代表世話人) : 被害者・遺族からの声
- 滝本太郎(JSCPR 理事) : オウムの現状、被害とは
- 山口貴士(JSCPR 事務局長) : 今、すべきこと

— 事件をふりかえってそしてこれから —



会場のご案内

立正大学品川キャンパス 9号館・地下1階 (東京都品川区大崎 4-2-16)



- ・ JR 山手線「大崎駅」北改札西口 徒歩 7 分
- ・ 同「五反田駅」西口 徒歩 7 分、
- ・ 東急池上線「大崎広小路駅」徒歩 3 分

(↓詳しいアクセス↓)

[Http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa](http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa)

正門から階段を半分まで上り、左手1号館に沿って左に回りこむと、9号館の入口です。

●日本脱カルト協会とは

当会は、破壊的カルトの諸問題の研究を行い、その成果を発展・普及させることを目的とした非営利の団体です。心理学、宗教学、社会心理学等の研究者、宗教者、弁護士、精神科医、臨床心理士、カウンセラー、学校関係者、そして「議論ある団体」の元メンバーやご家族等、この問題に関心を持つ幅広い分野からの会員により構成されています。

●設立の経緯

1995年3月の強制捜査にはじまった一連のオウム報道では、教祖の異常性と共に、信者達の想像を絶する奇妙な行動が問題になり、マインド・コントロールという概念で様々に説明されました。オウム真理教事件では、加害者となった信者の多くが、世間的にはいわゆるエリートであったことも人々を驚かせました。

オウム真理教や統一協会のように勧誘の際にターゲットの精神の不安定化を図って取り込み、やがて社会常識を捨てさせ、教団の論理で行動させ被害をもたらす集団を、私たちは破壊的カルトと呼んでいます。欧米では、日本に先駆けてこのようなカルトの被害に注目し、その予防、脱会支援、脱会後の社会復帰などカルトに関わる問題に取り組む団体が作られ、多方面の専門家や元メンバーらがネットワークを形成してきました。

オウム真理教の場合、自分の子どもが入信して教団活動をしていることに悩んだ親たちが、1989年には「オウム真理教被害者の会」(現、オウム真理教家族の会)を組織し、何人かの専門家がアドバイザーとなりました。そして、1995年5月の教祖逮捕を受け、6月には、その専門家らを中心に、カウンセラー、研究者、宗教関係者らが独自に集い、情報交換を始め、同年11月に「日本脱カルト研究会(Japan De-Cult Council)」を設立しました。その後、2004年4月に、現在の「日本脱カルト協会(The Japan Society for Cult Prevention and Recovery)」に名称を変更し、様々な議論ある団体を脱会した元メンバーや家族も会員とし、より幅広い分野のからの参加者を得て現在に至っています。

